



蒙を啓く

学校だより1月号(2) 2026.1.16

福井市啓蒙小学校

福井市開発 1-1008 TEL: 54-2819 FAX: 54-9769 E-mail: keimo-e@fukui-city.ed.jp

学校だよりは、啓蒙小学校ホームページでもご覧いただけます。http://www.fukui-city.ed.jp/keimou-e/

令和8年1月号の続きです。

○ 学校評価

12月に行われた「教育活動に関するアンケート」へのご回答、ありがとうございました。今回、「啓蒙小学校をさらによくするためのご意見」として、記述式で回答する欄を設けました。貴重なご意見を書いてくださったみなさま、ありがとうございました。全て掲載することはできませんが、一部ご紹介します。

先生方が笑顔で接してくださっていることが、何よりのお手本だと思いますので、このまま続けてご指導よろしくお願ひいたします。

対話の中でより深く学ぶためにも、間違ったり、人と違った意見を持ったりしてもよいのだという雰囲気、そして子どもたちが自分と違う意見を否定するのではなく、認められるように今後も指導していただけたらと思います。

挑戦・創造の方法をさらに学べる場として、異学年での交流の場をもっと設けると良いと思う。

全学年での集団下校のタイミングをもっと増やすと、注意しないといけなところなどを下級生が学べるのではないかと。下校中、横断歩道のない道を横切の子が見受けられます。

集団登校に並ぶときも、無言で挨拶が無いのが気になります。高学年を筆頭として挨拶運動、挨拶週間などがあれば良いなと思います。

まち探検を通して、親も学校周辺のお店を知ることができ、とてもよい経験をさせていただきました。まち探検のあと、一緒にお店に行くことになりたいへんうれしかったです。いつも熱心に子どもに教えてください先生方には頭が下がります。お身体にだけは気をつけてお仕事してください。先生方の働き方改革がさらに進み、余裕のある日々の中で子どもたちと関わっていただけたら本当にうれしいです。

教職員への温かいエールや貴重なご指摘、誠にありがとうございます。参考にして参ります。また、「つながるデー」についても、ご意見をいただきました。

つながるデーは子どもたちに【宿題がない！】と心の余裕をつくっているのでもいい活動だと思います。実は子どもたちだけでなく、親も【宿題やってね】の一言を言わないで済む日があるということはとても助かることです。

つながるデーを学校でどのように評価しているのか知りたいです。

何をするのも子供の自由にさせるというより、その都度、テーマ(手伝い、研究、工作、調べもの、体力づくりなど)を与えて、それをどう取り組むかは自由という形にしたら良いと思う。何をどう取り組んだかの報告も、ちゃんとさせて欲しい。

「つながるデー」が始まってから2ヶ月ほどが経ちました。2月頃に、「何とつながったのか」について、発表する機会を設定したいと考えています。これは、「考える力」を育てたいと考え、実施している取組です。力はすぐに育つわけではありません。「与えられる」のを待つ子どもではなく、「自ら課題を見つけ出す力」を少しずつ育てていきたいと考えています。「つながるデー」発表会を開催した折には、またブログ等でお知らせします。

R7 第2回メディアマスター 取組結果

令和7年12月1日(月)～7日(日)に、各家庭で「わが家のメディアルール」(時間と使い方の2種類)を決め、毎日チェックしてもらいました。1週間で最大14個〇がつくうち、11個以上〇が付いたら「メディアマスター」になれる!という取組です。

各クラスの結果

	児童数	実施人数	メディアマスターの人数	メディアマスター達成率	学団達成率(R6.12月)	〇の数の平均	学団平均(R6.12月)
1の1	33	30	28	93.3%	84.8% (78.3%)	12.60	12.33 (12.0)
1の2	32	30	24	80.0%		11.83	
2の1	23	23	19	82.6%		12.61	
2の2	24	24	20	83.3%		12.29	
3の1	24	23	19	82.6%	91.2% (80.6%)	12	12.52 (11.8)
3の2	25	23	20	87.0%		12.56	
3の3	25	22	19	86.4%		11.91	
4の1	30	28	28	100.0%		12.93	
4の2	29	29	29	100.0%		13.21	
5の1	29	29	25	86.2%	86.8% (81.9%)	12.34	12.37 (11.9)
5の2	30	25	19	76.0%		11.56	
6の1	26	26	26	100.0%		13.04	
6の2	27	26	23	88.5%		12.52	
ひま・たん	11						

☆考察

- ◎ 例年通りの中学校区としての取組であり、多くの家庭で意識付けがなされ、協力が得られている。
- ◎ 活動の目的は「家庭でのルール作りを通して、メディアとの付き合い方を保護者と児童が考える」ことであるが、学校での事前指導として、文科省の情報モラル教育動画を視聴するなどして、発達年齢に応じた指導を行ったことが、児童の意識改善につながっている。
- ◎ 前年度の同時期の結果と比較すると、全体的に達成率が上がっている。情報モラル教室や、ひまわり教室など、外部講師を招いての授業を行ったことや、各クラスにおいて意識的に情報モラル教育を取り入れた成果と考えられる。
- ▲ 家庭によって取り組み方に差がある。ルール設定に問題があること(ふくいスマートルールや啓蒙スマートルールとかけ離れたもの)も見られる。情報モラル教育に児童とともに参加していただくなど、学校家庭で一緒に考えていく機会を設けていかなければいけない。
- ▲ 平日はルールを守れても、土日になるとルールを守れない児童が多い。
- * インフルエンザの流行期とメディアマスター週間が重なり、学級閉鎖中に、「自宅療養中で、メディアと接する時間が長くなってしまった。」という振り返りがあった。今後は、期間を別に設けるなど事前に連絡して柔軟に対応していきたい。

生徒指導部から、第2回メディアマスター週間の結果が発表されました。「考察」にもあるように、学校では、授業で動画を視聴するなどして、メディアとの付き合い方を学ぶ時間をとっています。しかし、十分とは言えません。ぜひ、これからも、ご家庭でメディアとの付き合い方を話し合ってください。また、子どもだけでなく、私たち大人も、メディアから自分を切り離してみる時間を設けてみると、いろいろな発見があるかもしれませんね。

